障害者の理解や、接し方などについて、より深く学べたら良いなと思い、このテーマを設定した。

　それについて、ヘルパーステーションりんの方にインタビューをした。内容の主なものは以下の通りである。

質問「関わっている方の障害にはどんなものがありますか？」

回答「身体障害、知的障害、精神障害と関わっている」

質問「社会全体が障害者理解を進めるためにやったほうが良いと思うことはなんですか？」

回答「障害を持っている人も、障害がない人も、もっと交流をすることで理解しあえると思う」

質問「初めて障害者と接した時、不安を感じましたか？また、それをどのように克服しましたか？」

回答「敬語で初対面の人にもみんな同じように挨拶をして雑談をしながら特徴を掴んでいった」「つまずいた時は、職場の仲間に相談しアドバイスを受けた」

質問「障害者理解を深めるために参考にしている本や言葉などがありますか？」

回答「ホーキング青山という本を読んだり、ＮＨＫのバリバラという障害者に関する番組を観ている」

質問「障害者にとってどうしたら幸せになれると思いますか？」

回答「差別のない国を作ること」「バリアフリーについて、もっと普及して進んでほしい」

　ヘルパーステーションりんで、私がインタビューした所、利用者への思いやりや感情が伝わってきた。

　まずはじめに、印象に残った回答は、「障害を持っている人も、障害がない人も、もっと交流すること」である。私は、交流についてあまり深く考えたことがなかった。しかし、つい最近、交流が大切だと思うようになってきた。何が大切かと言うと、初対面の場合でも、積極的に歩み寄ることにより、徐々に友人関係ができる。そして、相手の気遣いや優しさが出てきて、今度はフレンドシップが生まれる。だから、やっぱり交流したほうが良いと私は考えている。また、色んな情報を持ったほうが良いと思う。私は、経験が乏しく、情報も少ない。なので、これから経験を重ねて、自分自身、成長したいと考えている。

また、私が一番重要だと思う回答は「障害理解についてもっとバリアフリーを普及し、差別のない素晴らしい国を作ること」だった。私は、バリアフリーは、まだまだ少ないと感じている。それは、障害児にとっては一番不利益だと思う。だからこそ、障害児にとって、少しでも良くなる方法を常に考えた方が良いと思う。また、世界中のみんなが悩んでいる差別。人もそうだし動物もそう。強い者が弱い者をやっつける。私は、いじめも差別も一緒だと考えている。自分もそうだし世界中のみんなも一度は偏見をいだいたことはあると思う。そんな世の中をなくすためには、自分には、本当に偏見はないだろうか？と一度心を落ち着かせて考えてみる。そしたら、みんなも心穏やかな差別のない国になれるのではないかと私は考えている。

インタビューに協力してくださった方、ヘルパーステーションりん職員５名。